

(15) 経験年数別の保育士像

国の処遇改善の区分に基づく経験年数	業務				処遇			自己研鑽(研修受講)		人事考課で重視して欲しい項目		職場等に関する満足度	
	担当する主な年齢別クラス	自信のある業務	自信のない業務	自信が持てるまでに必要な経験年数	正規かつ常勤保育士の平均年収(各種手当含)	1週間の労働時間の割合	勤務継続意向のある保育士の割合	施設外研修を受講した保育士の割合	受講回数が多い施設外研修の内容	保育専門能力	保育関連能力	満足度の高い項目(6割以上の回答)	満足度の低い項目(4割以上の回答)
7年以上	0歳児	3歳以上児の主担任	救急救命技術	・3歳以上児の主担任 →3年以上5年未満 ・救急救命技術 →5年以上7年未満	【公立】 約423万円 【私立】 約338万円	・40時間未満 →約13% ・40～50時間 →約66% ・50時間以上 →約21%	約78%	約38%	発達が気になる子どもへの対応		・通勤時間 ・職場の人間関係 ・保護者との関係	・賞与を除く賃金 ・時間外(手当て)の支給 ・時間外勤務の時間数	
3年以上7年未満	1歳児	3歳未満児の主担任	障害児保育	・3歳未満児の主担任 →3年以上5年未満	【公立】 約317万円 【私立】 約277万円	・40時間未満 →約17% ・40～50時間 →約53% ・50時間以上 →約30%	約71%	約30%	子どもの発達過程の理解	①保護者に対する支援 ②発達が気になる子どもへの対応 ③乳児への対応	①責任感 ②協調性 ③クラス運営力	・通勤時間 ・職場の人間関係 ・保護者との関係	・賞与を除く賃金 ・時間外(手当て)の支給 ・時間外勤務の時間数 ・休暇制度
3年未満	2歳児			・障害児保育 →5年以上7年未満	【公立】 約269万円 【私立】 約249万円	・40時間未満 →約13% ・40～50時間 →約62% ・50時間以上 →約25%	約82%	約36%	発達が気になる子どもへの対応		・人材育成制度 ・通勤時間 ・職場の人間関係 ・保護者との関係 ・施設理念や方針	・賞与を除く賃金 ・時間外(手当て)の支給	
実態調査の傾向と分析	○経験年数に応じ、担当クラスが低年齢化している。 ○年齢が低いほど保育の難しさがあることが一因と思われる。	○経験年数7年未満の保育士は、障害児保育に自信のない傾向にある。		○経験年数7年未満の保育士は、障害児保育に自信が持てるようになるには、少なくとも5年の経験が必要と考える傾向にある。	○公立と私立を比較すると、経験年数3年未満では、約20万円の差がある。 ○3年以上7年未満では約50万円の差がある。 ○さらに、7年以上では、約80万円の差がある。	○40時間以上50時間未満の労働時間の割合は、経験年数が3年以上7年未満の保育士が最も少ない。 ○一方、50時間以上の労働時間の割合は、経験年数が3年以上7年未満の保育士が最も多い。	○経験年数3年以上7年未満の保育士が最も少ない割合である。 ○モチベーションが一時的に低くなる時期であることが予想される。	○経験年数3年以上7年未満が最も少ない割合である。	○各階層共通して、「保護者に対する支援」、「発達が気になる子どもへの対応」、「乳児への対応」の回答が多い傾向にある。 ○なお、施設長が人事考課で重視している項目も同様である。	○各階層共通して、「責任感」、「協調性」、「クラス運営力」の回答が多い傾向にある。 ○倫理・規範性や企画判断力は低い傾向にある。	○各階層共通しているのは、「通勤時間」、「職場の人間関係」、「保護者との関係」 ○経験年数が3年未満の保育士では、「人材育成制度」、「施設理念や方針」の満足度が高い傾向にある。	○各階層共通して、時間外手当の支給を含む賃金に対する満足度が低い傾向にある。 ○経験年数3年以上7年未満の保育士では休暇制度に対する満足度が低い傾向にある。 ○経験年数3年以上の保育士では、時間外勤務の時間数に対する満足度が低い傾向にある。	

